

以下のリストは、特定の製品に適用される追加の利用条件を示す。各製品項目は、かかる製品に適用される1つまたは複数の脚注を示す。脚注は、本契約の条件を補足する。各脚注の定義はリストの後に記されている。注文関連ドキュメントで特に断りのない限り、エクステンション製品の利用条件は、対応する製品の利用条件に準拠する。廃止された製品には、当該製品の廃止日の時点で有効な製品別利用規約が適用される。お客様が署名したマスター契約に指定ユーザー ライセンスの利用条件が含まれていない場合は、<https://www.esri.com/legal/software-license>においてアクセスできるマスター契約のセクション 2.5 および 2.6 に記載されている指定ユーザー ライセンスの利用条件が適用されるものとする。マスター契約での定義に加え、以下の定義を製品別利用規約に適用する。

- 「認証」とは、ArcGIS Location Platform へのアクセスを可能にする Esri 提供のメカニズムを使用することを意味する。認証メカニズムの現在のリストは、セキュリティと認証に関するドキュメント (<https://developers.arcgis.com/documentation/mapping-apis-and-services/security/>) を参照。

デスクトップ製品

- ArcGIS Earth (20、65)
- ArcGIS Explorer Desktop (20)
- ArcGIS for AutoCAD (20)
- ArcReader (20)
- ArcGIS for Personal Use (3)
- ArcGIS Pro (7)

サーバー製品

- ArcGIS Enterprise
 - Standard または Advanced (17、23、31)
 - Workgroup (Standard または Advanced) (23、28、29、30)
 - ArcGIS GIS Server (Standard または Advanced) (31)
 - ArcGIS GIS Server Basic (31、39)
 - ArcGIS GIS Server Workgroup (Standard または Advanced) (28; 29; 30)
 - ArcGIS GIS Server Workgroup Basic (39)
 - ArcGIS Maritime (2)
- ArcGIS Enterprise オプション機能サーバー:
 - ArcGIS Image Server、ArcGIS GeoEvent Server、ArcGIS GeoAnalytics Server、ArcGIS Notebook Server Standard、ArcGIS Mission Server、ArcGIS Workflow Manager Server (Advanced または Standard)、および ArcGIS Knowledge (31)
- ArcGIS Enterprise Workgroup オプション機能サーバー:
 - ArcGIS Image Server、ArcGIS GeoEvent Server、ArcGIS GeoAnalytics Server、ArcGIS Notebook Server Standard、ArcGIS Mission Server、および ArcGIS Workflow Manager Server (Advanced または Standard) (4)
- ArcGIS Business Analyst Enterprise (17、23、31)
- ArcGIS World Geocoder Basic (67)

Developer 製品

- ArcGIS Developer Subscription
 - すべてのプラン (16、66、68、78、89、97、103、109)
 - Builder、Professional、Premium、または Enterprise Plans (24、77、92)
 - Essentials プラン (90)
- ArcGIS Developer Bundle (16、24、77)
- ArcGIS Location Platform (5、16、66、78、89、90、97、103、109)
- ArcGIS AppStudio Developer Edition (11、16、19)

- ArcGIS Engine Developer Kitおよびエクステンション (16、19、22)
- Developer APIおよびDeveloper SDK
 - ArcGIS Runtime SDK for Android、iOS、Java、macOS、.NET、またはQt (16、19)
 - ArcGIS API for JavaScript (16、63、64)
 - ArcGIS CityEngine SDK および Procedural Runtime (19、105)
 - ArcGIS Maps SDK for Unity、またはUnreal Engine (16、62、64)
 - ArcGIS Maps SDK for Java、Kotlin、.NET、Qt、Swift、またはFlutter (16、19)
 - ArcGIS Maps SDK for JavaScript (16、63、64)
- ArcGIS Runtime Deployment License for Android、iOS、Java、Kotlin、macOS、.NET、Qt、またはSwift
 - Lite (15、62、64)
 - Basic または Standard (1、15、18)
 - Advanced (15、18)
- ArcGIS Engineデプロイメントライセンス for Windows/Linuxおよびエクステンション (15、22)
- Esri File Geodatabase API (47)

モバイル

- ArcGIS Navigator (6)

その他

- ArcGIS Hub (85)
- ArcGIS Indoors (86)
- ArcGIS Indoors Maps (99、100、101)
- ArcGIS Indoors Spaces (100、101)
- ArcGIS IPS (99、100)
- ArcGIS Insights (17)
- ArcGIS StreetMap Premium (6)
 - ArcGIS StreetMap Premium Custom Roads
 - ArcGIS StreetMap Premium for Asset Management
 - ArcGIS StreetMap Premium for Runtime
- ArcGIS Survey123 (107、108)
- Site Scan for ArcGIS Operator ライセンス (32、33)
- ArcGIS GeoAnalytics Engine
 - Connected, Additional Core-Hours Plans (27、103)
 - Disconnected Plan (27, 102)

Online Services

- ArcGIS Online のサブスクリプションは、複数の販売プログラムで入手できる。
 - 商業販売、エンタープライズ契約、および政府プログラム (5、23、66、68、69、70、77、82、96、103、106)
 - 教育プログラム (5、23、66、68、69、70、71、82、96、103、106)
 - 非営利プログラム (5、23、66、68、69、70、71、82、96、103、106)
- パブリック プラン (5、66、68、74、75、76、80、106)
以下のカテゴリに入るお客様にはこれらの追加権利がある。
 - 商業販売 (72)
 - エンタープライズ契約 (72)
 - 行政機関 (72)
 - NGO/NPO (72)
 - プレス/メディア プログラム (72)
 - 教育プログラム(71)
- ArcGIS Velocity (103)
- ArcGIS Image Dedicated—Pro Machine (103、104)

販売プログラム

- ArcGIS Project Delivery Subscriptions
 - シングルテナント (83)

脚注：

1. ダイレクトコネクションによるエンタープライズ ジオデータベースの編集には使用できない。
2. ナビゲーションには使用しないものとする。
3. 個人の、非商用使用に対してのみ使用許諾される。
4. – 4コアサーバー1つに限定
 - 別のマシンにインストール可能
5. リアルタイム ナビゲーション ガイダンス、同期複数車両ルートおよび同期ルート最適化は、以下の場合を除き、許可される。(i) 車載システム統合 (例: 車載センサー、運転支援、自律走行車) および (ii) リアルタイムのルート検索やナビゲーションを提供することを主な目的とする、消費者を対象とした付加価値アプリケーション/顧客アプリケーション。
6. ArcGIS StreetMap Premium North America 2024 Release 2、ArcGIS StreetMap Premium Europe 2024 Release 1、ArcGIS StreetMap Premium Latin America 2024 Release 1、ArcGIS StreetMap Premium Asia Pacific 2024 Release 1、ArcGIS StreetMap Premium Middle East & Africa 2024 Release 1 または、それ以降のリリースでは、リアルタイム ナビゲーション ガイダンス、同期複数車両ルーティング、同期ルート最適化は次の場合を除き許可される。(i) 車載システムの統合 (例: 車両センサー、運転支援、自律走行車)、または (ii) リアルタイムルート検索やナビゲーションを提供することを主な目的とする、消費者を対象とした付加価値アプリケーション/顧客アプリケーション。
7. お客様は、指定ユーザー ライセンスでログインしている場合、複数のマシンでスケジュールされた操作 (バッチ処理など) を実行することはできない。

8-10. 別途使用予定

11. ArcGIS AppStudio Developer Editionで構築されたアプリケーションは、ArcGIS Runtime Deployment License の利用条件に従うものとする。
12. 別途使用予定
13. 別途使用予定
14. 別途使用予定
15. デプロイメント ライセンスとして使用が許諾される。
16. お客様はSDKまたはAPIを使用して付加価値アプリケーションを作成し、輸出規制で禁じられていない場所で使用するエンド ユーザーまたは第三者に対して、当該付加価値アプリケーションを配布およびライセンス付与できるものとする。
17. お客様は本製品に含まれるOracle Instant Client ライブラリまたはそのドキュメンテーションを再配布してはならない。Oracle は、お客様の Oracle Instant Client ライブラリ利用に関してのみ、本契約の第三者受益者である。統一コンピューター情報取引法 (UCITA) は、お客様の Oracle Instant Client ライブラリの使用には適用されない。
18. ライセンスストリングをライセンス有効化テクノロジーとして使用する場合、デプロイメント ライセンスは、ユーザー1人、デバイス1台、付加価値アプリケーション1つにつき1つ必要である。
19. ライセンスを、インターネットベースまたはサーバーベースの付加価値アプリケーションの開発に使用することはできない。
20. 再配布ライセンスとして使用が許諾される。
21. 別途使用予定
22. a. 1台のマシン上でArcGIS Engineアプリケーションを実行する権利を取得するためには、エンド ユーザーは、ArcGIS Engine for Windows/Linuxソフトウェアまたはその他のArcGIS Desktopソフトウェア (Basic、Standard、Advanced)のいずれかのライセンスを取得しなければならない。また、
b. ArcGIS Engine 付加価値アプリケーションを実行する場合、ArcGIS Engine for Windows/Linux エクステンションを ArcGIS Desktop ソフトウェアと組み合わせて使用してはならない。単独使用のユーザーは、当該エンド ユーザーのみが使用するマシン1台に複数のArcGIS Engine付加価値アプリケーションをインストールすることができる。

23. システム間通信

- a. お客様は、**Basic** サービス ログインを使用して、ArcGIS Enterprise または ArcGIS Online からお客様の組織内にある他のサードパーティ製エンタープライズ ビジネス システムに対して、一方向の読み取り専用のシステム間通信を行うことができる。お客様は、Esriが実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、**Viewer** 指定ユーザーの資格情報またはレベル1の指定ユーザーの資格情報を**Basic**サービス ログインのために使用できる。**Basic**サービス ログインのために使用される個別**Viewer**指定ユーザーの資格情報またはレベル1の指定ユーザーの資格情報は システム間の連携のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。
- b. お客様は、**Standard** サービス ログインを使用して、ArcGIS Enterprise 、または ArcGIS Online とお客様の組織内にある他のサードパーティ製エンタープライズ ビジネス システム間で、双方向の読み書き可能なシステム間通信を行うことができる。お客様は、Esriが実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、**Editor/Contributor** (またはそれ以上の) 指定ユーザーの資格情報またはレベル2の指定ユーザーの資格情報を**Standard**サービスにログインするために使用できる。**Standard**サービスにログインするために使用される**Editor/Contributor** (またはそれ以上の) 指定ユーザーの資格情報またはレベル2の指定ユーザーの資格情報はシステム間の統合のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。

24. ソフトウェアは、プロトタイプ付加価値アプリケーションの開発、テスト、デモンストレーション、およびマップ キャッシュの作成のみを目的として使用できる。顧客は、付加価値アプリケーションとマップ キャッシュを、ArcGIS Enterprise ステージング サーバー ライセンスおよびデプロイメント サーバーライセンスで使用できる。ソフトウェアおよびデータは、**Builder**以上のプラン サブスクリプションおよび/またはArcGIS Developer Bundleを契約しているすべてのArcGIS Developerサブスクリプション契約者が使用する目的で複数のマシンにインストールしてもよい。他のすべてのソフトウェアは、単独使用ライセンスとして使用が許諾される。

25. 別途使用予定

26. 別途使用予定

27. 第三者にサービスを提供して、収益を得るのに使用することはできない。

28. ArcGIS Enterprise WorkgroupまたはArcGIS GIS Server Workgroupアプリケーション以外のアプリケーションの同時使用はエンド ユーザー10名に制限される。この制約事項には、ArcGIS Desktopソフトウェア、ArcGIS Engineソフトウェア、およびArcGIS Enterprise WorkgroupまたはArcGIS GIS Server Workgroupジオデータベースに直接接続するサードパーティ製アプリケーションの使用が含まれる。ウェブ アプリケーションからの接続数に制限はない。

29. ソフトウェアには、サポート対象のバージョンのSQL Server Expressが必要である。サポートされるバージョンは、製品のシステム要件とともにEsriウェブサイトに掲載されている。

30. コンポーネントはすべて、1台のサーバーにインストールしなければならない。

31. フェイルオーバー ライセンスが含まれる。

32. このソフトウェアの使用には、ドローンを操縦するためのパイロット免許 (例: FAA、EASA、など) は含まれない。

33. お客様は、このソフトウェアにより収集または処理したお客様のコンテンツを保存するため、このソフトウェアで提供のオンラインストレージを使用することのみ可能とする。

34-38. 別途使用予定

39. ArcGIS GIS Server BasicおよびArcGIS GIS Server Workgroup Basicでは、ArcGIS GIS Serverに含まれている編集機能は使用できない。

40-46. 別途使用予定

47. お客様は、お客様のエンド ユーザーに対し、Esri File Geodatabase API を使用する付加価値アプリケーションを開発および配布することができる。

48-61. 別途使用予定

62. 付加価値アプリケーションは、他のEsri製品と併用しなければならないものとする。

63. ウェブ デプロイメント用の付加価値アプリケーションは、他のEsri製品と併用しなければならないものとする。

64. 付加価値アプリケーションと他のEsri製品を常に併用する場合に限り、付加価値アプリケーションとともに第三者の技術を使用できるものとする。
65. 他のEsri製品とのみ併用できる。ArcGIS Earthと他のEsri製品を常に併用する場合に限り、ArcGIS Earthとともに第三者の技術も使用できるものとする。
66. 保存済みジオコード用の有料Online Servicesサブスクリプションのあるお客様のみ、World Geocoding Serviceが生成したジオコード処理結果を保存することができる。お客様は、有料サブスクリプションを通じて生成されたジオコード処理結果を保存し続けることができる。
67. ジオコードは、年間サブスクリプションにつき、2億5千万件に制限される。
68. お客様は、Infographicsサービス経由でアクセス可能なデータを表示目的にのみ使用できるが、このサービスからいずれのデータも保存することはできない。
69. お客様の組織における事業目的のために使用できる。
70. お客様の組織における開発およびテストのために使用できる。
71. 教育機関における教育目的での使用が許可される。
72. お客様の組織における社内業務のために使用できる。
73. 別途使用予定
74. 個人用途に利用できる。
75. 共有ツールを使用して公的に共有することによってのみ、お客様は第三者による付加価値アプリケーションの使用を許可することができる。お客様は、自らの業務上の使用を目的として付加価値アプリケーションを稼動させるために本サブスクリプションを使用することはできない。ただし、お客様が、教育目的に限定して付加価値アプリケーションを使用する教育機関、認定されたNGO/NPO組織、またはメディアあるいはプレス機関である場合を除く。
76. お客様は、プライベートグループの作成またはプライベートグループへの参加を許可されない。
77. お客様は、第三者のArcGIS OnlineおよびまたはArcGIS Enterpriseの指定ユーザーライセンスでのみ有効にすることが可能な付加価値アプリケーションを第三者に有料で頒布できる。
78. 商用アリデブロイメントライセンスが含まれる。
79. 別途使用予定
80. 登録された教育機関の学生に対し、教育目的に使用する場合に限り、1つのサブスクリプションを複数の登録された学生で共有し、Online Servicesに直接アクセスすることができる。
81. 別途使用予定
82. 特定の指定ユーザーのみが使用するワークフローを自動化しようとする場合に限り、当該指定ユーザーの資格情報をArcGIS API for Pythonの自動化スクリプトに組み込むことができる。
83. お客様は、お客様のクライアント（以下「クライアント」）ごとに個別のArcGIS Project Delivery Subscriptionを使用しなければならない。お客様は、ArcGIS Project Deliveryサブスクリプションを、(i)クライアントとのプロジェクト作業に協力するためにのみ、(ii)クライアントおよび、クライアントがプロジェクトでクライアントを代表すると指定した第三者（以下「利害関係者」）に、指定ユーザー ライセンスをサブライセンスし、お客様がクライアントの利益のみのために実施するプロジェクト作業に協力するために、使用することができる。クライアントおよび利害関係者は、それ以外の目的で指定ユーザー ライセンスを使用することはできない。お客様は、クライアントおよび利害関係者によるこれらの利用条件の遵守について一切の責任を負い、プロジェクト終了時には、クライアントおよび利害関係者にArcGIS Project Delivery Subscriptionの使用を確実に停止させるものとする。
84. 別途使用予定
85. ArcGIS Hubに付属のソフトウェアライセンスおよびサブスクリプションは、ArcGIS Hubが有効にしたコミュニケーションイニシアチブをサポートするためにのみ使用できる。お客様は、第三者に、コミュニケーション活動への参加のみを目的としてArcGIS Hubの指定ユーザーになることを許可できる。お客様は、従業員、代理店、コンサルタントまたは委託業者に、ArcGIS Hubからコミュニケーションイニシアチブを管理、構成、維持およびサポートすることのみを目的としてArcGIS Hubの指定ユーザーになることを許可できる。ArcGIS Hubに付属のソフトウェアライセンスおよびサブスクリプションの他の使用は許可しない。

86. お客様は、ArcGIS Indoorsに付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションを、ArcGIS Indoors ドキュメントで定義したArcGIS Indoorsの機能を有効にするためにのみ、使用できる。ArcGIS Indoorsに付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションの他の使用は許可しない。
87. 別途使用予定
88. 別途使用予定
89. お客様は、認証によりArcGIS Location Platformにアクセスする、収益を生む付加価値アプリケーションを、直接または販売経路を通じて、第三者に頒布できる。収益を生むすべての付加価値アプリケーションは、ArcGIS Location Platformへのアクセス時に、認証を使用する必要がある。
90. お客様は、開発およびテスト目的で組織内に複数のサブスクリプションを有することができる。お客様は収益を生む、付加価値アプリケーション用に、組織内にサブスクリプションを1つのみ使用することができる。
91. 別途使用予定
92. お客様は開発内でプライベートグループを作成、またはプライベートグループに参加する、およびArcGIS Developer Subscriptionに含まれるArcGIS Online Organization Subscriptionをテストすることのみ許可される。
93. 別途使用予定
94. 別途使用予定
95. 別途使用予定
96. お客様は、指定ユーザーによるプログラム不要のインタラクティブなアクセスのために、ArcGIS Image サービスを使用することができる。ArcGIS Imageサービスのプログラマティック使用 (例. バッチ分類、ディープラーニング等、または1回に10MBを超えるデータ量のエクスポート) は許可されない。
97. 第三者の付加価値アプリケーションを使用する際に、API キーを求められるお客様のエンドユーザーは、ArcGIS Location Platform から当該の API キーを生成する必要がある。ArcGIS Onlineアカウントから生成されたAPIキーは、このシナリオでは許可されない。
98. 別途使用予定
99. ArcGIS Indoors Mapsに含まれるユーザータイプは、ArcGIS Indoors Maps、ArcGIS Indoors Spaces、およびArcGIS IPS用の製品ドキュメントで定義した機能を有効にするためのみにライセンス付与される。
100. お客様は、ArcGIS Indoors Maps、Spaces、およびArcGIS IPSと連携するために特別に作成された付加価値アプリケーションでの使用のためにのみ、ArcGIS Indoorsユーザータイプを使用できる。
101. ArcGIS Indoor Spacesライセンスには、Workspace ReservationsまたはSpace Plannerの使用が必要となる。
102. 各ディスコネクテッドプランは、1つの制作クラスターに限定する。
103. 注文関連ドキュメントまたはドキュメントに記載されるとおり、消費ベースモデルを通じて利用される **Online Services** またはソフトウェア機能を含む場合がある。 **Online Services** およびソフトウェア機能には、それらに関連付けられた異なる消費単位がある (その例として、ArcGIS Online クレジット、コア時間、または容量)。割当または前払済の消費単位モデルを通じて **Online Services** またはソフトウェア機能にアクセスできる Esri 製品の場合、消費ベースの **Online Services** またはソフトウェア機能を使用すると、**Online Services** またはソフトウェアの使用に適用できる割当または前払済の消費単位数が減少する。Esriは、お客様が割当または前払済の消費単位を使い切る手前に、お客様に通知する。Esri は、割当総数または前払済総数の消費率が 100 パーセントに達した場合、お客様による **Online Services** またはソフトウェアの該当する消費ベース機能へのアクセスを制限または一時停止する権利を留保する。お客様は、該当する消費ベースの **Online Services** またはソフトウェア機能を継続使用できるようにするため、必要に応じて追加単位を購入できる。お客様が追加単位を購入しない場合、お客様は、ArcGIS Online でのお客様のコンテンツの継続的なストレージに対して引き続き料金が発生するリスクを負担する。一部の**Online Services** またはソフトウェアでは、お客様は、消費ベース機能の超過料金を有効化できる。お客様が超過料金を有効化した場合、Esriは、未払い分を月額請求し、または登録されたクレジットカードに請求し、お客様はその時点のレートで生じた料金を支払う責任を負う。Esri は、お客様の支払い金額に滞納がある場合、お客様による該当する消費ベースの **Online Services** またはソフトウェア機能へのア

クセスを制限または一時停止する権利を留保する。お客様が滞納額を支払い、消費ベース機能へのアクセス資金を支払うと、Esri は、お客様による当該消費ベース機能へのアクセスを速やかに復元する。

104. 仮想 Pro Machines にプレインストールされた ArcGIS Cloud Store コネクション ファイル (ASC ファイル) は、他のデバイスにコピーまたはそれ以外で、転送することはできない。
105. お客様はSDKまたはAPIを使用して付加価値アプリケーションを作成し、輸出規制で禁じられていない場所で使用するエンド ユーザーに対して、当該付加価値アプリケーションを配布およびライセンス付与できるものとする。
106. お客様は、Standard Feature Data Storeを使用して、500GBを超えるフィーチャーデータストアを使用することはできない。お客様は、サブスクリプションで有効になっているストレージの上限を超えることはできない。
107. 画像検出または難読化機能を含む場合がある。お客様は、出力を確認し、技術により見落とされた可能性のある情報を手動で調整しなければならない。
108. お客様は、サードパーティのAPIを通じて提供され、また、サードパーティの条件およびプライバシーポリシーが適用される人工知能 (AI) 機能にアクセスおよび使用するには、オプトインをしなければならない。
109. ベースマップ スタイルは、ArcGIS Location Platformベースマップ サービスでのみ使用するものである。